

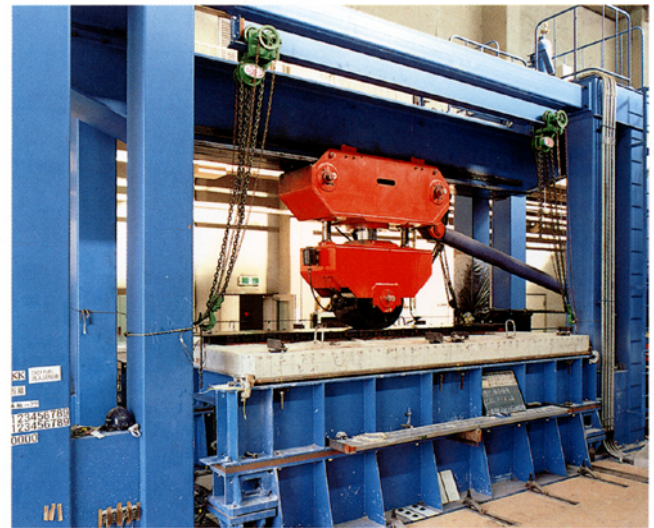
PSR工法は、補強用の鉄筋をRC床版の下面に取り付けた後、マグネラインで既設の床版と完全に一体化させる工法です。弾性的でフレキシブルな構造体の形成により、曲げ及びせん断に対する補強効果が同時に得られ、また、マグネラインの防蝕効果により耐久性も向上します。

PSR工法は、S61年に(財)土木研究センターにおいて「曲げ供試体による疲労試験」を行うことから始まり、国内ではいち早く、大阪大学で「輪荷重走行試験機による疲労耐久性試験」を行い疲労耐久性能が確認され建設省のパイロット事業をはじめ、数々の施工実績を重ねた上に、平成11年と12年に建設省土木研究所にて実験を行いました。

PSR工法の特長

- ① 床版下面からの施工のため、交通開放したまま、施工できます。
- ② 現床版を補強する工法なので、産業廃棄物を出しません。
- ③ 天候の影響を受けずに施工ができます。
- ④ 工事中の騒音や振動が無いため周辺に迷惑をかけません。
- ⑤ 補強後は目視点検ができます。
- ⑥ 補強と同時に防錆・防蝕効果があります。
- ⑦ 橋面上部より雨水が浸入しても水を滞留させません。
- ⑧ 補強に必要な耐力(不足鉄筋量)はRC理論により求める事ができます。

PSR工法の疲労耐久性試験



建設省土木研究所における輪荷重走行試験

施工例(土研)



配筋



圧送コテ塗り



完了



圧送コテ連続工法

独自に開発した「MG圧送機」を使用。連続作業により大幅な工期短縮と工費の縮減を実現しました。

※100Vのコンパクト設計ですので、狭い足場内などでの作業にも問題ありません。